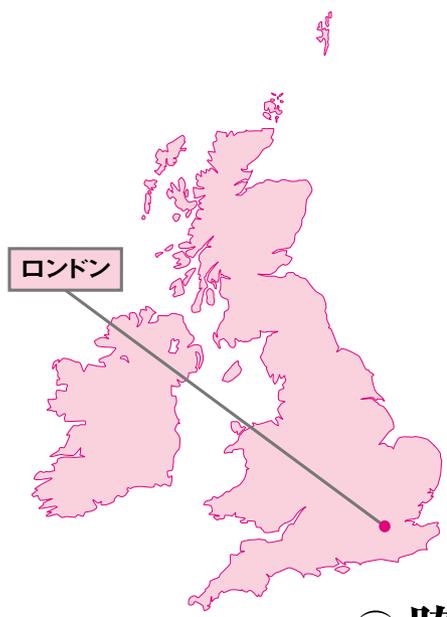


# 各地の学窓から



## 英国経済は好調でも就職は大変

脇坂 明  
(学習院大学経済学部教授)



二〇〇四年は英国議会の歴史において、これまでほとんどなかった議事妨害が起こった。一つは、たまたま同僚夫妻が居合わせた、父親の権利復権を唱えるグループによるもので(彼らは、その後バックingham宮殿でもやった)、もう一つはキツネ狩り禁止法案に反対するグループによるものである。後者

は一九四九年に提出されたこともあるが、次々提出されはじめたのは、一九九二年からで、この背景にはアニマル・ライト運動の進展がありそうだ。これを動物愛護運動などと訳すと間違いで、そんな生易しいものではなく、動物に人権と同じものを与えようというものである。彼らの影響力は強く、私のい

るオックスフォードでも動物実験をする研究所の建設が凍結に追い込まれている。英国は伝統を重んじる国だが、うえの二つの運動にもみられるように、良い意味でも悪い意味でも世界で最初のことをやってくれる国である。日本でよくやられているスポーツのかなりが英国で生み出されている。

ブレア率いる労働党政権は、二〇〇三年から出産休暇延長、父親休暇の導入などをしただけでなく、有給出産休暇の一年への延長など(実質的に日本と同じになる?)も予定している。私はファミリーフレンドリー施策推進者だから、アングロサクソンもやつとこまでできたかという思いだけでなく、歓迎する気持ちになるはずだが、どうもトニー・ブレアという男を感情的に好きになれない。ブレアが学生のころ、オックスフォードで最も高いホテルであるランドルフのバーでよく酒を飲んでいたという噂を聞くと、そこには絶対行きたくないという気持ちになる。ちなみに、このバーは私の愛読書であるコリン・デクスターの主人公モース警部がよく行くので有名になり、現在はモース・バーと名を変えている。

大英帝国からヨーロッパの一小国になったイギリスだが、いまでも世界に普及させるようなものを生み出すのは上手なようだ。サッチャー以降、競争力強化に乗り出し、労働者の能力(エンプロイアビリティ)向上に力を注いでいる。その仕事能力を測るのに、NVQという職業能力評価制度も作って(これも現在のところ英国だけ)、訓練と評価を結びつける政策を推進している。サッチャー以降ははじめられた大学改

革もブレアになって加速化されているようだ。政府補助が削減され、どの大学も必死でオックスフォードも一部のコレッジを除いて状況は同じである。来年ぐらいいから実施される入試改革には、Aレベル(かなり違うが入試センター試験と思えばよい)の結果がわかってから志望大学に出席できるようになるようだ。こんなことを今さらと思われるかもしれないが、英国で大学進学率が急上昇したのは、この一〇年である。希望が増えたというより、職業専門校のポリテクニクスなどを大学に格上げして急激に増やしたわけである。

英国はいま統計をとっていらい最低の失業率というくらい景気がよいが、大学を卒業するの簡単に就職できるかというところでもない。オックスフォード大学も圧倒的に良いかというところでもなく、卒業六カ月目の就職率の大学比較をみると、四〇大学が含まれる九五%以上でなく、つぎの九〇〜九四%にはいって(このStudent Book 2005)専攻分野別の就職率(失業率)が掲示板に貼りだされていたが、二〇〜三〇%も仕事の見つからない分野もあり(ちなみに経済は一〇%以上だったと思う)、卒業が大変なだけでなく(これは日本と比べれば言うまでもないであろう)就職も大変である。

脇坂 明(わきさか・あきら)  
労働経済学専攻。主な著書に『日本型ワークシェアリング』(PHP新書、二〇〇二年)など多数。二〇〇四年四月から二〇〇五年三月までオックスフォード大学日産日本問題研究所の客員研究員。

# 図書館だより

## 10月の主な受け入れ図書

<p>①手塚和彰著『外国人労働者研究』信山社出版 外国人労働者問題研究は第二ステージに入っているが、本書は、当該分野研究の第一人者である著者の既発表論文を収録している。日本の受入政策、国際比較、外国人労働者の実態の3部より構成され、今後の政策研究の基礎となっている。(xi+397頁, A5判)</p>	<p>④佐藤博樹編著『パート・契約・派遣・請負の人材活用』日本経済新聞社 非正規社員の活用法については、数多くの図書が刊行されているが、本書は雇用関係のない派遣・請負等の多様な働き方や法律面の留意事項にも言及されている「人材活用ポートフォリオ」戦略の書である。わかりやすくコンパクトな実務書となっている。(169頁, 新書判)</p>
<p>②玉木伸介著『年金 2008年問題』日本経済新聞社 公的年金制度の積立金とその運用に焦点を当て、政府の「財投改革」も念頭におき、民間年金の積立金運用との比較分析をしている。総合研究開発機構の「高齢化社会における政策優先性の研究」の一環であり、研究・分析はさらに続行中である。(238頁, B6判)</p>	<p>⑤安田雪著『人脈づくりの科学』日本経済新聞社 豊かな人間関係を築くためには知り合いの量が大事なのか、それとも質を求めるべきなのか、解答は一つではないであろうが、本書によれば「数ではなく質」である。ではどのような人間関係の質を求めるべきなのか。解答は本書に体系的に示されている。(253頁, B6判)</p>
<p>③太田聡一・橋本俊詔著『労働経済学入門』有斐閣 少社の実力派の労働経済学者とアイデア豊富で精力的な泰斗の労働経済学者の手になるテキスト。フリーター、男女共同参画、高齢者雇用、等カレントなテーマが数式なしに解説されている。肩肘はらずに最新の労働経済のテーマにアクセス可能である。(ix+224頁, B6判)</p>	<p>⑥百瀬好子・山本知男著『「金の卵」の四十年』つくばね社 昔「金の卵」という言葉があった。本書では「賃金が低く、使いやすい(主に地方出身の新規中途就職者)」のことである。かつて定時制高校の教師であった著者が40年ぶりに再会した金の卵からのヒアリング記録と、当事者自身の自伝史から構成されている。(229頁, B6判)</p>
<p>⑦日置弘一郎・川北眞史編著『日本型MOT』中央経済社 (viii+213頁, A5判) ⑧西村清彦・峰滝和典著『情報技術革新と日本経済』有斐閣 (vii+231頁, A5判) ⑨林周二著『研究者という職業』東京図書 (viii+261頁, B6判) ⑩西田小夜子著『定年夫は、なぜこんなに「じゃま」なのか』ソニー・マガジズ (254頁, B6判) ⑪関西女の労働問題研究会編著『竹中恵美子が語る「労働とジェンダー」』ドメス出版 (213頁, A5判)</p>	<p>⑫藪田碩哉著『遊びと仕事の人間学』遊戯社 (227頁, B6判) ⑬本多信一著『食べていくための自由業・自営業ガイド』岩波書店 (x+220頁, 新書判) ⑭橋由加著『アメリカの大学教育の現状』三修社 (243頁, B6判) ⑮加藤周一・ロナルド・ドーア監修『日本を問い続けて』岩波書店 (xi+252頁, B6判) ⑯勝又壽良・岸真清著『NGO・NPOと社会開発』同文館出版 (7+207頁, A5判)</p>

(新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください)

### 今月の耳より情報

当機構の祖父の代に当たる日本労働協会の設立目的が「健全な労使関係の育成の支援」であったことから、当資料センターには多くの労働組合機関誌・労働組合新聞が所蔵されています。その数は一〇〇誌・紙以上に上ります(タイトル名は当機構HPの「所蔵雑誌リスト」の当該頁をご覧ください)。加えて多くの労働組合のご協力を得て、大会資料も継続的に収集しています。組織率が二〇%を切ったと



はいえ、労働組合は、公正な労働を実現する社会的アクターとしての潜在力を秘めています。今後の労働組合運動を再構築するためには、過去の歴史に学ぶとともに、世界の労働運動の姿を知る必要があります。そのような労使関係図書資料を多数所蔵している当資料センターをご利用ください。組合運動家にかぎらず研究者にとっても貴重な資料が保存されています。労使関係においても研究のメッカと

もなるべく図書・資料の収集・保存・提供に努めていますので、ご利用をお待ちしております。

### 図書館長のつぶやき

旧日本労働研究機構時代には、新宿ライブラリーと上石神井資料センターの二館体制で公開図書館としての機能を遂行してきましたが、昨年の三月に新宿ライブラリーを閉館、新法人においても、上石神井一館で運営しています。立地条件にかかわらず貴重な図書・資料をあまねく提供できないかと思索投げ首の日々です。情報通信手段の発達によりユビキタス図書館(電子図書館)も単なる夢物語でなくなる日もそう遠くないかもしれません。図書の香り、人類の偉大な知的財産に囲まれているという図書館の雰囲気を感じることは不可能でしょう。是非遠方の方も機会を作っていただいで、図書の香り・雰囲気に関わりたい。お問い合わせください。



**ご案内**  
**労働図書館(資料センター)**

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書96,000冊、洋書24,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで蔵書の半数以上を占めています。この他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(490種)、洋雑誌(220種)、紀要(450種)、組合機関誌・紙についても、受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物や各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間:9:30~17:00  
休館日:土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他  
電話番号:03(5991)5032/FAX:03(5991)5659  
利用資格:閲覧はどなたでも自由にできます  
貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです  
※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください  
レファレンスサービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています